

阿南市科学センター

2月の星空案内

北

2026年2月中旬
21時頃の空

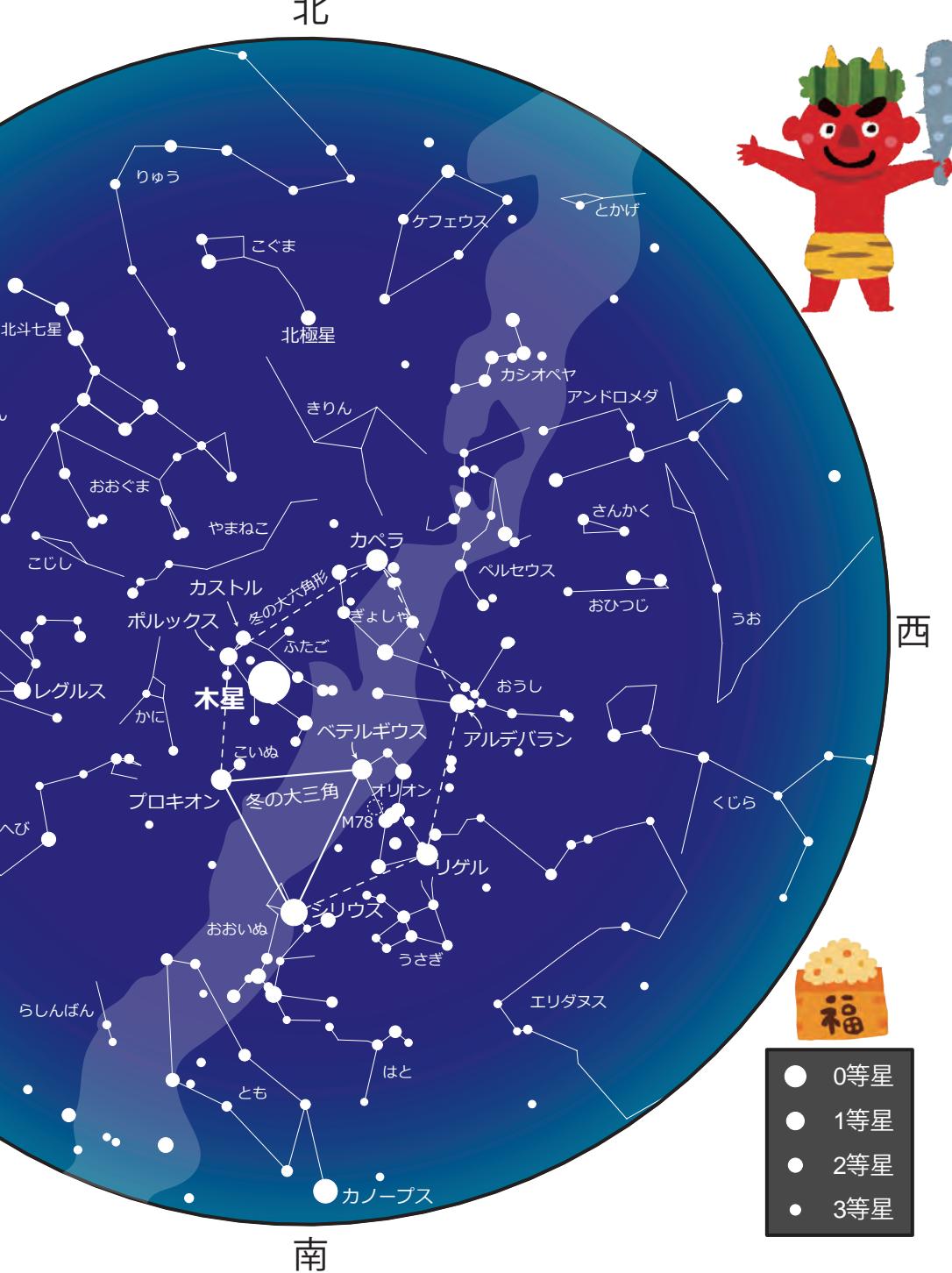
東

西

南



- 0等星
- 1等星
- 2等星
- 3等星



寒くてなかなか観測がしんどい季節ですが、空は透明度が高く、宝石箱のような星空を見ることができます。では冬の宝石を一つ探してみましょう。出発点はオリオン座の一等星リゲル（約0.2等）から。リゲルを見つけたら、南東の方角へ目線を動かすと、全天で最も明るく輝くおおいぬ座の一等星シリウス（約-1.4等）が見つかります。そこから天頂へ目線を向けると、こいぬ座の一等星プロキオン（約0.4等）、ふたご座の一等星ポルツクス（約1.2等）が続けて見つかり、そのすぐそばにはとても明るい木星（約-2.7等）も今年は見つけられそうです。さてではポルツクスから少し北へ目線を動かすと、ぎょしゃ座の一等星カペラ（約0.1等）を見つけることができます。カペラから目線を南西に向けると見つかるのがおうし座の一等星アルデバラン（約0.9等）です。こうして見つけた6つの一等星を全てつなぐと冬のダイヤモンド（冬の大六角形）が出来上がります。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催】

阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <https://www.ananscience.jp/science/>

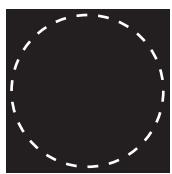
■ 2月の月の満ち欠けと惑星について



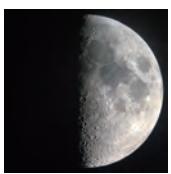
満月
2日



下弦
9日



新月
17日



上弦
24日

天体観望会で
月が見えるおすすめ日時は？



2/21（土）：19時の回で観察可能



2/28（土）：全ての回で観察可能

水星：中旬から夕方西の低空に見える（20日東方最大離角）。【約0.0等】

金星：中旬から宵の明星として西の低い空に見える。【約-3.9等】

火星：太陽に近く、観察は難しい。

木星：日没後、南の空で見え始め、明け方前に沈む。【約-2.5等】

土星：日没後に西の空で見えるがすぐに沈む【約1.1等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ（水星のみ20日の明るさ）。



■ 今月のおすすめ天体

【木星と衛星を観察してみよう！】

太陽系最大の惑星である木星。現在木星はふたご座のポルックスやカストルのすぐそばに位置し、双子ではなく三つ子のような顔をして輝いています。

木星は自転速度がはやく、約10時間で一回転します。つまり、一日が10時間です。そのため木星の大気も流れが早く、縞模様に見えます。また、木星には大赤斑と呼ばれる目のような模様が特徴的で、これは地球での台風のようなものです。台風とはいって、その大きさは地球がちょうど1個ほど入ってしまう大きさ。文字通りスケールが違いますね。

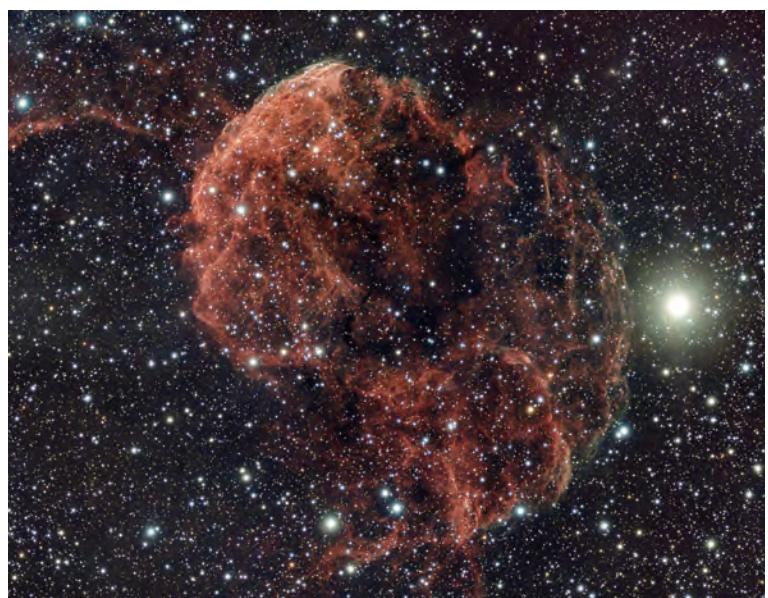
さてこの木星を望遠鏡で見てみるとその周りに4つほど明るい星が見えます。この4つをまとめてガリレオ衛星といい、かつてガリレオ・ガリレイが発見した衛星となっています。ガリレオ衛星のうち、エウロパと呼ばれる衛星はその地下に液体の水の海があると考えられており、地球外生命体がもしかしたら…と今後の研究に期待したい天体です。



木星と衛星イオ
2020年8月20日撮影

■ イチオシ天体写真

【ふたご座のくらげ星雲 (IC 443)】



くらげ星雲 (IC 443)
2026年1月6～8日撮影, 180秒露光×187枚
Askar 103APO + ASI294 MC pro + CBP filter

冬の星座ふたご座には数多くの星雲・星団が分布しています。そのうちの一つに「くらげ星雲」(IC 443)という愛称で呼ばれる天体があります。この天体は19世紀後半、ドイツの天文学者M・ヴォルフやアメリカの天文学者E・バーナードによって発見され、現代でも天体写真家に人気の撮影対象です。

星雲の種類としては「超新星残骸」に分類されます。太陽より何十倍も重い大質量星が最期に大爆発を起こし、木っ端微塵に吹き飛んだガス（残骸）が、クラゲのような不思議な形を作っています。超新星爆発の研究に欠かせない天体でもあります。